

中学校における特別支援学級 および通級指導教室について

守山市立守山北中学校

通級指導教室 教諭 松田充史

特別支援学級（知的障害）

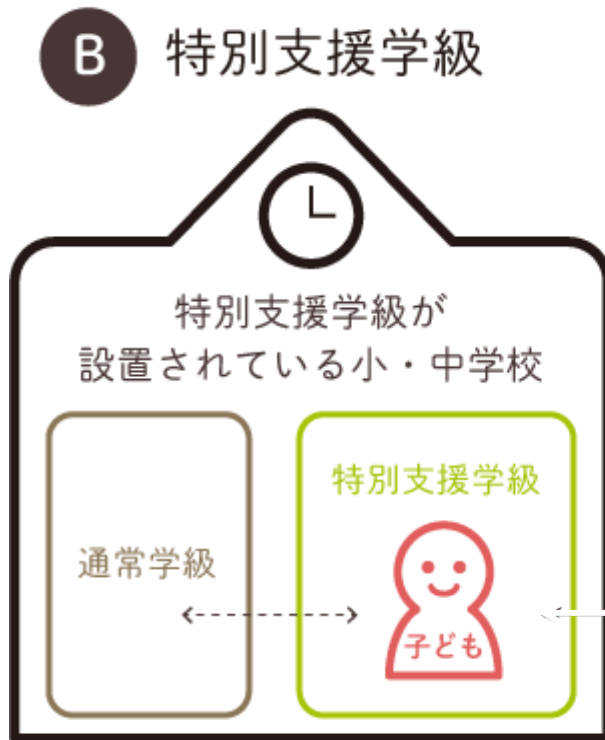
知的発達が遅滞があり、他人との意思疎通に軽度の困難があり日常生活を営むのに一部援助が必要で、社会生活への適応が困難である程度のもの。

＊肢体不自由、病弱・身体虚弱
弱視、難聴、自閉症・情緒障害

特別支援学級

- 地域の小・中学校に設置。
- 必要がある場合は特別な教育課程が組める。
- 通常学級の日課での学校生活。
(常時様々な刺激を受けやすい)
- 交流及び共同学習が実施しやすい。
- 地域を教材にしやすい。

特別支援学級イメージ図



出典：<https://h-navi.jp>（抜粋）

＜特別な教育課程＞

各教科をあわせた指導

▷ 国語・社会・・・

「立体地図作りの学習」を通して守山市の将来を考える

- ・歩いて商店街を調べ、立体地図と商店街の様子や感想をパネルで展示

▷ ＜成果＞

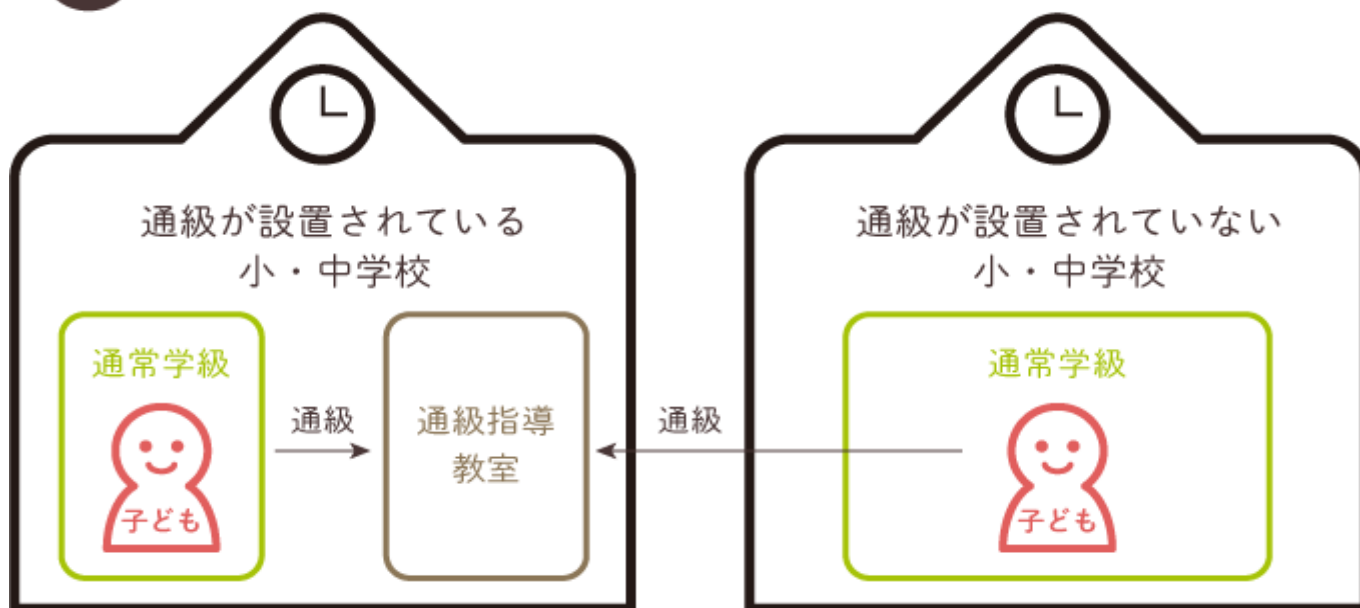
- ・地域を見つめることができ、視野が広がった。
- ・地域での所属意識が持てた。

通級指導教室

通常の学級に在籍している軽度の障害のある児童生徒に対して、主として各教科等の指導を通常の学級で行いながら、障害に応じた特別の指導を特別の場で行う指導形態。

通級指導教室

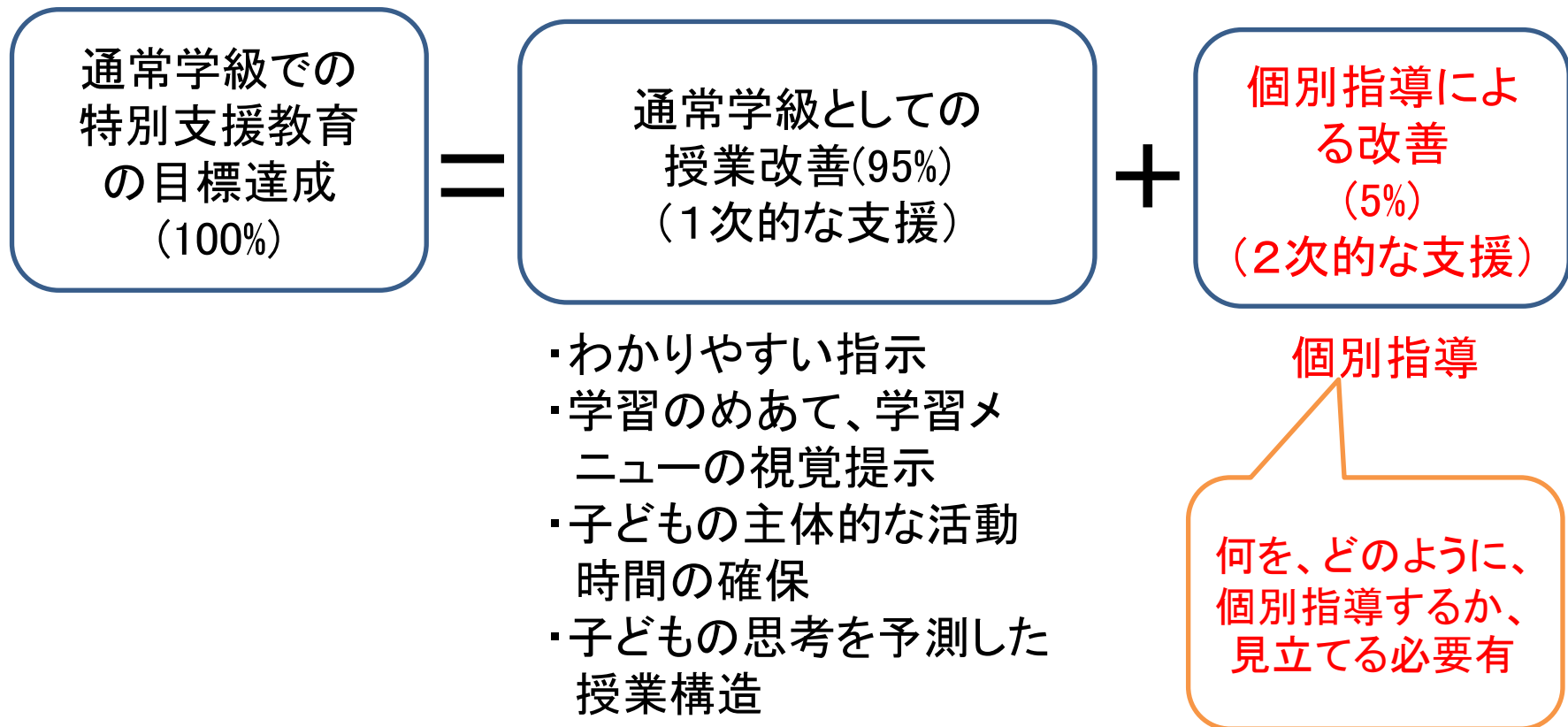
A 通級



出典 : <https://h-navi.jp/>

通常の学級での特別支援教育推進

個別の支援を進めることが、対象の子どもの力をつける主たる方法であるという誤解があるのではないか。



2次的な支援の場である通級をどう運用するかが通常の学級の充実に

指導事例

学級で書いた作文等を活用し、読み書きやコミュニケーション能力を伸ばす

読み書きに課題のある子への指導

自校通級 中学3年生男子

通級開始 中学1年生11月(中学3年生3月まで 週1回の指導)

通級につながった経緯

自己肯定感が低下しているので、安心して人と関わり、やりとりの楽しさを感じる場が必要であると在籍校からの見立てがあった。

また、学力不振への支援として、個別による段階的な指導が必要なことから、通級指導につながった。

(学習上・生活上の困難さ)

- ・文章を書くことに抵抗が強く、板書をノートに書き写すことや作文が苦手である。
- ・思いの表出が苦手で、集団に自分から関わっていくことが難しい。

通級における指導領域

ことば、学習面・・・教科の補充(国語:読み書きの指導)
対人・社会性面・・・自立活動(人とのかかわりの向上)
その他・・・・・・・・視機能(視覚認知)の向上

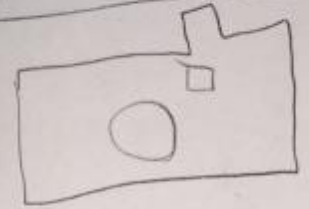
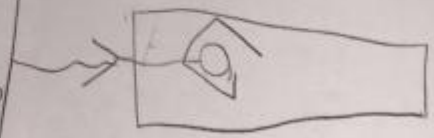
聞いてまゝないだニと [redacted] とじらほうし

はながさつ 火のしごき
うがっさつ ほうさか
うじつ せして こん
がはかた。かじのな
いたるにしたい
あまつた



かんこうに
たいいなるちほうみる
みなる 二じいのうり
ふしはに せでまていら
しごきとせしはかつりたし
たの

とじらほうし



たにい
みいそがなるにをすん
がなること がたい
つのあかねはりのに
のつぎくはりたにい
つということ もま

かしにとまにこう



たにいせつや
かとりででえるしごき
かとりみなるやでえうり
くするしごきとせして
をまゝなと

みじうたにカー



火の仕事 消防士

消防活動や救急活動、防火活動をしていることが多かった。
火事のないこの世にしたいと思った。

大事な仕事 銀行

- (窓口では) 相手(お客)が何を考えているかを考えることが大切。
お金は命の次くらい大切なことも学んだ。

観光にどうぞ 写真館

大事なところは、見る、見習う。個人の能力によってできる仕事だとわかった。

大切な家 住宅メーカー

一人でできる仕事じゃない。みんなで協力する仕事をしていることを学んだ。

「書くことは勉強やと思う。」「書くのは嫌や。」

「字、まちがえへんかったら良いけど・・・。」

「字へたやから、自分でも何書いたか、
読めへん時がある。」

「頭に浮かんだこととかが、一瞬にしてばばっと書いてくれたらいいのに・・・。」

書かなくてはいけませんが、書けない自分がダメだ

という思いを持っていた。

しかし、「授業中は、書いてないけど話を聞いて黒板を見てる。」

「そしたら、わかる。」と自分なりの方法を語ることもできた

興味関心の高い教科を中心に後押しを行った。その際、「教科書をじっくり見てると、なんか覚えられる。」と答えた。学級担任と相談し、書くことが中心ではない学習方法であるが、本児のやり方を認める中で自信が持てた。

- 字の乱れや漢字表記の少なさを指摘せず、書いたことを認める。



- 視機能・視覚認知に課題があり、書字に困難さや抵抗感はあるものの、学級で自分の思いや感想を書く場面ではがんばって取り組むようになった。
努力することを認め合う学級の心地よい雰囲気は安心感をもたらしていた。

2年 ひびきあい活動 感想

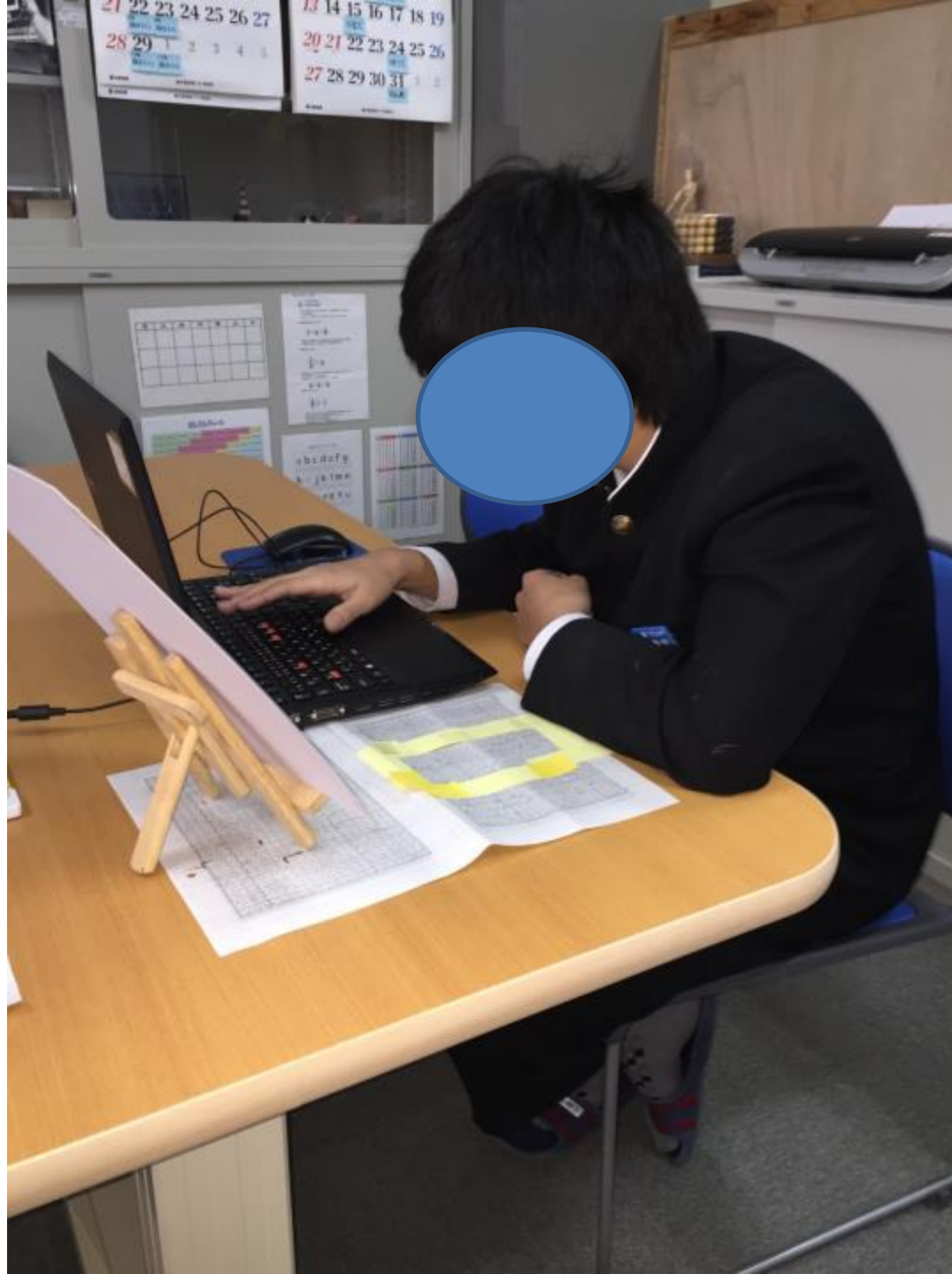
名前 [REDACTED]

僕は、初めて有名人にあった。あまり知らなかったけど、おもしろかったです。夢は、あらかた決まっています、夢は、刀鍛冶になりたいです。鍛冶屋になるには、色々な資格がいるとお母さんが言ってました。でも、刀鍛冶はとてもやりたいです。高校は工業高校に行きたいです。

『薬物乱用防止教室』を終えて

名前 [REDACTED]

僕は、タバコや危険ドラッグや覚醒剤は、一生やるつもりはありません。なぜなら、タバコや危険ドラッグや覚醒剤は、人を不幸にするだけで、何も良い事が無いからです。タバコはやり始めると全ての元凶になることが分かりました。



生徒の弱みを指摘するのではなく、対話ややりとりを通して気づかせる。その中で弱みを強みに視点を変えたり、補う別の方法を共に考えるなかで自覚させる。そうした支援を意識的に行い、自分を知ることにつなげる。



しなやかに、生き抜く力をつけてほしい。

自立と社会参加を見据えて、義務教育最終ステージでその基礎を育て送り出すこと。

そのため、その子の障害特性に応じた特別な教育課程を組んで展開する。